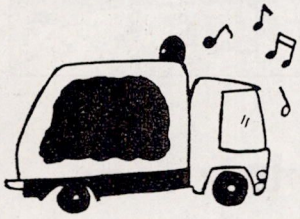




清掃だより

福生市
衛生課
発行
54・7・16

ごみの出し方のルール！



毎日、ごみを集めにくる収集車。誰でも、一度は見かけたことがあると思います。チャイムを鳴らしながら、市内各収集所を回り、みなさんのごみを集めている収集車には、収集以外にも一つ大きな役目があります。チャイムのあとの「市民のみなさんへ」というアナウンスを、聞いたことがありませんか。女性の声で、ごみの出し方など、ごみの出し方のルールを、みなさんにお知らせしています。

ごみはかならずふたのあるポリバケツで出しましょう。燃えるごみと燃えないごみを分けて出ししましょう。など、どこかで聞いたことがあると思います。収集車は毎日毎日、ごみの出し方のルールを、みなさんにお知らせしながら走っているのです。

ごみの出し方のルールを守ること。そこから、ごみ減量も、町内美化も、出発します。もう一度このルールについて、一緒に考えてみましょう。

ごみはふたのあるポリバケツで

買物袋やビニール袋で出されては、困ります。

買物袋は中が見えないため、危険物が入っていてもわからず、作業員がよくけがをして困ります。また、雨の日やごみに水分が多く含まれていると紙袋は、簡単に破れてしまい、ごみが散らかる原因にもなります。

ビニール袋も、簡単に破れてしまい、また、収集されたもえるごみは、そのまま焼却するため、ビニールが高温を出し、焼却炉をいためてしまいます。

これらのことから、福生市では、収集作業上も能率が良く、ごみの飛散も少なく清潔なポリバケツ収集を、行っているわけです。

燃えるごみと燃えないごみをわけて

市では、可燃物と不燃物を分けて出す分別収集を行っています。これは、可燃物と不燃物それぞれの処理方法、処分場所が、まったく違うからです。

このルールが守られないと、ごみ公害の発生、焼却炉の故障の原因になり、また、最新鋭の機械を導入したりサイクルセンターの能力も半減してしまいます。

可燃物と不燃物は、必ず区別して出してください。

生ごみは水分をよく切って

本格的な夏を迎え、食卓には、水もの生もののごちそうが並べられ、私たちを楽しませてくれます。しかし、それに比例して、生ごみの重さも倍増します。

水分をたっぷり含んだ生ごみは、収集作業の能率を悪くするばかりではなく、収集所が汚れる原因にもなり、また焼却炉の能力まで低下させてしまいます。

夏は、年間を通じてごみの一番多い時期です。ごみの重さに加えて、水の重さでは、収集作業がたいへんです。焼却炉にしても、ごみを燃やすだけでなく、まず水分を蒸発させなければならないのでは、十分な能力は発揮できません。

生ごみは、各家庭で十分に水切りをしてから、出すようにしてください。

収集所はごみ捨て場ではありません

みなさんで清潔に！

ごみ収集所は、ごみを捨てる場所ではありません。収集してもらうために、ごみを出す場所です。

みなさん一人ひとりが、ごみの出し方のルールを守っているならば、ごみはきたないものではないのですから、収集所を清潔に保つことは、簡単なことです。

収集時においても、処分時においても、同じ市民が、少なからぬ迷惑を受けていることを考え、収集所だけでも、みなさんで清潔にしましょう。

ごみ減量ステッカー

ごみを減らすためには、まず私たち一人ひとりの意識の向上が必要です。自分のごみに責任を持ち、少しでもごみを減らそうという意識のなかから、ごみ減量運動は促進されます。ごみ減量ステッカーは、ごみに対する意識の変革高揚を目的に作成されたもので、名前を記入して、ポリバケツに貼り、最後まで自分のごみに責任をもっていただくというものです。

福東町会では、「この地区をきれいに。あなたの心がわかります」と題した独自のステッカーを作成し、ごみ減量運動の強力な推進を図っています。

ごみ減量ステッカーは、各町会を通じて配布しましたが、町会に入っていない方々には、直接市役所衛生課の窓口で配布します。

ご意見・ご質問を

およせください

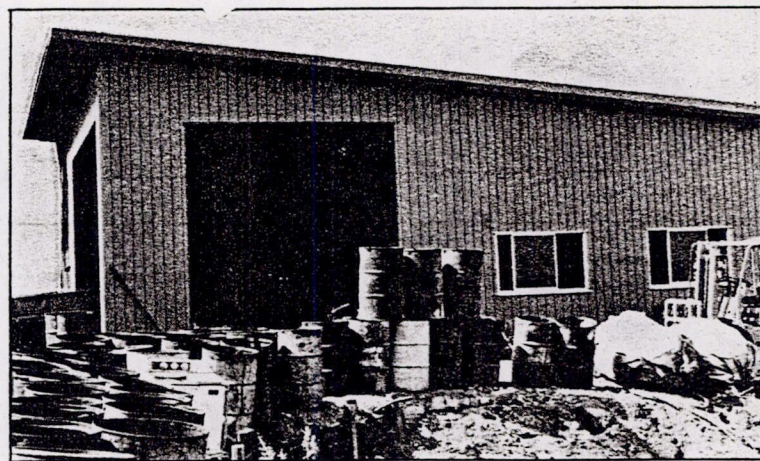
☎51-1511

内線284・285

市民部 衛生課 清掃係



写真1



福生市リサイクルセンター

人口増に対応できる不燃物中間処理施設をと、永年の懸案であった新しい施設が、昭和54年4月に完成し、試運転が行われ、順調に稼動しています。

この施設は、いままでの圧縮破砕機が、5年の歳月を経て老朽化したことや、不燃ごみ量の増大に対処できなくなったことなどから計画され、地域住民の方々の御協力により完成したものです。

新しい施設は、諸設備をすべて建物内に納め、天候に左右されることなく、処理ができるようになり、ごみの飛散の防止、また、作業員の健康面にも配慮がなされています。旧施設と比較し、設備は省力化、効率化のため、各種機械を導入するなど、福生市リサイクルセンターとして、名実ともに最新鋭の不燃物処理施設となっています。

写真説明

写真1 市内から収集される不燃ごみは、1日に19トンです。集められたごみは、リサイクルセンターに搬入され、前処理が行われます。

写真2 ごみは、ビニール袋や紙袋に入れられているのも多くあり、旧施設では作業員が破いていましたが、新施設では、破袋機を導入し、機械によって処理します。

写真3 ごみは、ベルトコンベアーで、吊下げ電磁選別機に運ばれます。この機械は、強力な電磁石により、鉄類を選別するもので、ここで、ビン類と鉄類空きカンが選別処理されます。

写真4

空きビン・プラスチック類は、手選別で処理します。

写真5

埋立処分しかできないごみでも、そのままの大きさでは、場所ばかりとってしまうので、破砕機でこまかくし、埋立てをします。これにより、処分地が長く使えるわけです。

写真6

選別された空きカン類のプレス。1個の重さは、およそ100kgです。



写真2

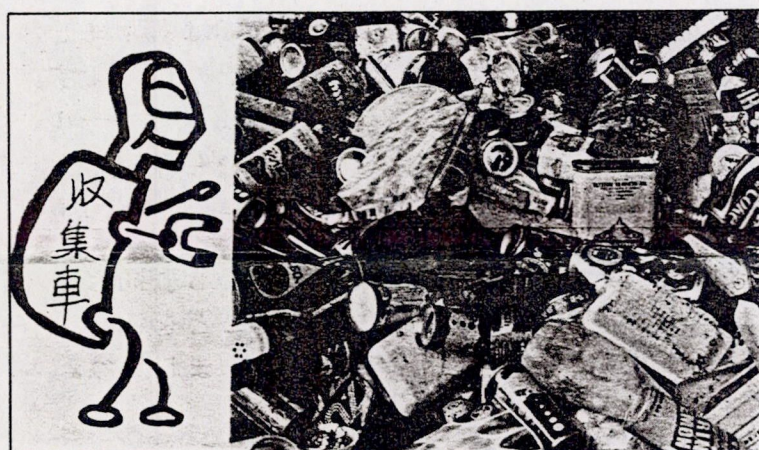


写真3

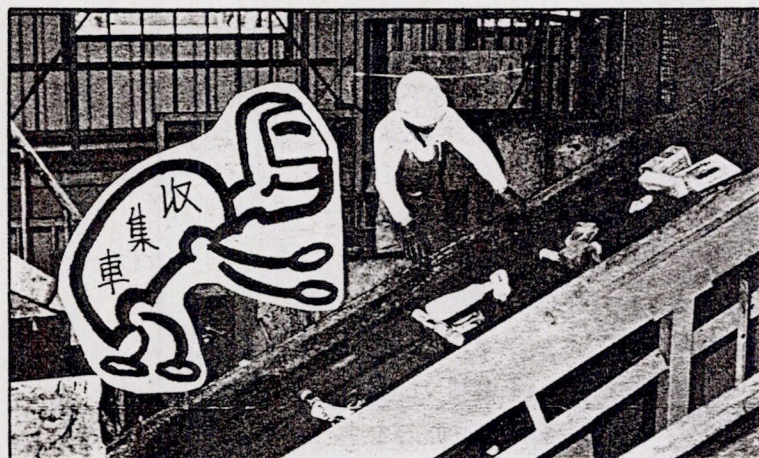


写真4

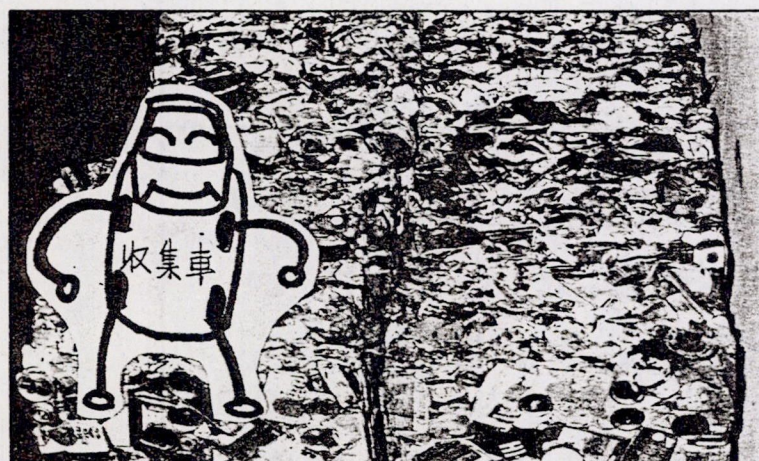


写真6

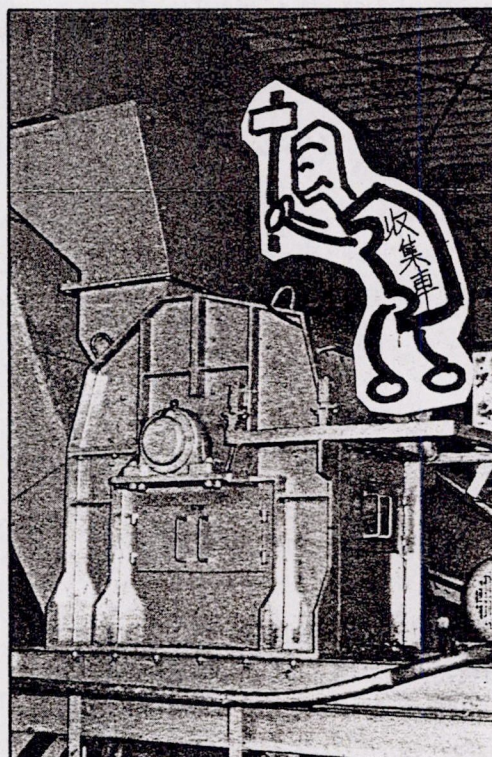


写真5